人気温泉旅館ホテル250選限定企画

岐阜県・長良川温泉

十八楼

創業150年以上の老舗

鵜飼で有名な岐阜長良川温泉。十八楼（伊藤善男社長）は長良川の河畔に建ち、鵜飼と温泉を楽しむ宿泊客でにぎわいを見せている。

歴史文化

創業は江戸時代末期の万延元年（1860）。屋号は松尾芭蕉が岐阜来遊時に夏の鵜飼の様子を詠んだ「十八楼の記」にちなんでいる。155年という長い伝統を誇る老舗旅館で、伊藤善男社長は8代目に当たる。

十八楼は、老舗の伝統を守りつつ、新たな時代を迎えるに当たり、創業150年記念事業の一環として2012年、旧家の蔵を再利用した「蔵の湯」をオープン。2013年5月には、蔵の湯と露天風呂、展望内風呂を備えた『お湯処「川の瀬」』をリニューアルオープンした。

2010年から宿泊客限定で毎日開催している「川原町散策ミニツアー」は、宿周辺の古い町並みと相まって、束の間のタイムトリップを味わえる。

▽十八楼は岐阜県岐阜市湊町10。☎058(265)1551。http://www.18rou.com/

お湯処「川の瀬」露天風呂

群馬県・万座温泉

万座温泉日進館

乳白色の万座温泉

標高1800㍍に湧出する「星とお友達になれる名泉」。万座温泉日進館（大野克美社長）のキャッチフレーズだ。

上信越高原国立公園に位置する万座温泉は、1日6万㌔㍑という豊富な湯量を誇り、27種の源泉は万病に効くといわれいながらにして湯巡りが楽しめると評判だ。

温泉・浴場

木の趣ある六つの浴槽がある。「姥湯」は皮膚病、リウマチ、神経痛、外傷の後遺症などに効くといわれる。「さゝ湯」はこれに笹の葉を入れたもので、笹の持つ血液浄化作用、細胞活性化作用が期待できる。

「姥苦湯」は万座最古の温泉の王様と言われる湯。難病を治した人も数多く、福田元首相もこの湯のファンだったとか。

展望露天風呂「極楽の湯」は万座で最も景色のよい温泉と言われる。朝早く起きて日の出を見ながら入れば気分は爽快。神経性ストレスの解消に効果を発揮しそうだ。

同館の健康志向は料理にも。夕食は2008年12月からバイキングとなり、長生きの元といわれる食材（豆、ゴマ、わかめ、野菜、魚、シイタケ、芋）を多用。それぞれの頭文字を取った「まごわやさしいコーナー」もあり、たいへん好評だ。

館内では毎夜8時から、プロの歌手による歌とトークのショーを開催。出演する泉堅（いずみ・けん）さんは同ホテルのオーナーでもある。

天然温泉と抜群の自然環境、健康志向の料理、楽しい歌とトークショーで、旅人の寿命も10年は伸びるかも。

2008年1月には新館「湯房」がオープン。設備がさらに充実した。

▽万座温泉日進館は群馬県吾妻郡嬬恋村万座温泉。☎0279（97）3131。http://www.manza.co.jp/

大浴場「長寿の湯」

極楽湯

岐阜県・飛騨高山温泉

ひだホテルプラザ

飛騨の山並みを一望

ひだホテルプラザ（井ノ下雄志社長）はミシュランガイド3つ星に輝いた観光地・飛騨高山のランドマークホテルといえる。古い街並みや高山陣屋などの主要スポットにも近く、観光にすこぶる便利だ。

温泉・館内設備

源泉「飛天の湯」は市街地の中では豊富な湯量を誇る。ナトリウム塩化物泉は〝美人の湯〟として、特に女性客に喜ばれている。

東館地下1階は畳敷きの山並みを一望できる展望風呂、露天風呂がある。さらに屋上には開放的なジャグジー風呂、壺風呂（陶器風呂）も。壺風呂は天然温泉をゆったりと独り占めできるとあって、宿泊客に人気だ。「特に冬の澄み切った夜空で輝く星空は至極の夜空」といい、贅沢な気分にさせてくれる。

バリアフリー対応で、飛騨のおもてなしのなせる心遣いだ。

▽ひだホテルプラザは岐阜県高山市花岡町2の60。☎0577（33）4600。http://www.hida-hotelplaza.co.jp/

眺望抜群の壺風呂

山梨県・西山温泉

慶雲館

世界で最も歴史ある旅館

「全館源泉掛け流しの宿　西山温泉　慶雲館」（深澤雄二社長）は、今からおよそ1300年前の西暦705年創業。さまざまな部門の世界一を記録した「ギネス・ワールド・レコーズ」に、「世界で最も歴史ある旅館」として登録されている。現在の当主、深澤さんは52代目。歴史の重みを感じさせる宿だ。

料理・温泉

温泉はこの地に流浪してきた都人の藤原真人が狩猟の途中に偶然発見。以来、現在まで枯れることなく湧き続け、武田信玄、徳川家康など多くの名将、文人がこの地を訪れ、湯に入ったと伝えられている。

自然湧出の源泉を4本持ち、泉質は含塩化土類芒硝泉（ナトリウム、カルシウム、硝酸塩、塩化物）。日本列島を横断するフォッサマグナの大地の裂け目から長年にわたり涵養されて湧出してくる名湯だ。

2006年には開湯1300年のアニバーサリー事業として、宿のすぐ隣で温泉掘削をしたところ、泉温52度、日本随一という毎分1600㍑以上の自噴泉を掘り当てた。

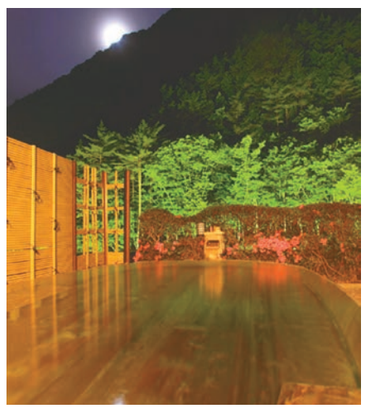
合計毎分2千㍑以上の源泉を、展望大浴場、野天風呂など6種類の浴場ほか、客室風呂、給湯、シャワーで使用。いずれも加温、加水をせずに使っている。ただ、限りある自然の恵みを無駄遣いすることなく、使用湯量は湧出量の4分の1程度にとどめている。

温泉施設は同館の顔といえる野天風呂「望渓の湯」「白鳳の湯」と最上階の展望風呂「松香の湯」「石風の湯」。ほかに、二つの貸し切り露天風呂がある。

料理は山里の恵みを生かした体に優しい会席。山と川の幸をふんだんに使い、海のものは一切使っていない。料理長の佐藤眞司さんは平成26年3月、第27回全日本日本料理コンクール郷土料理部門で国土交通大臣賞を受賞した腕前。至高の逸品を味わってもらいたい。

▽慶雲館は山梨県南巨摩郡早川町西山温泉。☎0556（48）2111。http://www.keiunkan.co.jp/

創業1300年余の老舗


展望野天風呂「望渓の湯」

富山県・金太郎温泉

金太郎温泉

肌が喜ぶ濁り湯の宿

創業50周年を迎えた金太郎温泉（木下荘司社長）は、「お肌よろこぶ濁り湯の宿」と銘打っている。珍しい泉質、源泉掛け流しの豊富な湯量、美肌の効能などが評判だ。

温泉・浴場

大浴場「壁画大浴殿」は300坪で、文化勲章受章者、浅蔵五十吉氏の陶板作品を浴室一面に配置。「カルナの館」内の「立山連峰パノラマ大浴殿」と「庭園大露天風呂」は合計800坪に及び、銘石を使って浴場内に立山連峰を再現している。

屋号は、創業者、石黒七平氏が「（人々が）金太郎のように全身に力があふれ、元気いっぱいに、健康になるように」と名付けた。客室数は90室。

7月に大宴会場の一つを和モダンに改装。約300席のテーブルでの利用も可能になった。

料理は日本海の旬の幸、ホタルイカ、ズワイガニ、ブリなどがうまい。

▽金太郎温泉は富山県魚津市天神野新600。☎0765（24）1220。http://www.kintarouonsen.co.jp/

庭園大露天風呂

岐阜県・下呂温泉

水明館

静かに流れる時間楽しむ

岐阜県下呂温泉の飛騨川沿いに建つ温泉リゾート旅館、水明館（瀧康洋社長）。能舞台や横山大観ら日本画家の巨匠たちの作品が飾られた画廊、情緒ある日本庭園など風格が感じられる。

同館では年に2回、茶会を開催している。新春の初釜式や、七夕、お月見などその年により趣向を変えて開催している。

茶会

夏の七夕茶会は、能舞台「石橋の間」で開催。軽装で気軽に参加できる茶会だ。

敷地内にある「水幸庵」は、独特な合掌造り茅葺屋根の茶室。9月の「お月見茶会」は、この水幸庵で開催。夜の茶会で、ろうそくの灯りで静かに流れる時間を楽しむ。水幸庵で薄茶、能舞台「石橋の間」で、香煎茶と菓子を用意。点心会場は切り絵の行燈や照明のほか、蓑やススキを飾りつける。

地消地産にこだわった料理にも定評がある。部屋食は、日本文化である旅館と日本料理の伝統を大切に、季節を先取りした「走り」の食材を中心とした献立となっている。

館内は食事処も充実しており、宿泊客以外の利用も多い。料理茶屋「北乃寮」は、本格的な個室やテーブル、囲炉裏など趣向を凝らした席がある。

昼食では下呂のご当地グルメGランチ認定「飛騨牛ひつまぶし膳」が人気。

レストラン「バーデンバーデン」では、飛騨牛や地元食材を使用した期間限定の特別プランが用意されている。

温泉は、3カ所の大浴場で湯巡りが楽しめる。日本三名泉である下呂温泉を心ゆくままに堪能できる。

山水閣の内風呂付き野天風呂、飛泉閣の展望大浴場、臨川閣では120平方㍍の檜の大浴場と、それぞれ趣のある浴場で楽しめる。飛泉閣と臨川閣の大浴場は、男女共風呂の大きさは同じ。展望大浴場は24時間利用できるのも嬉しい。

山水閣、臨川閣、青嵐荘は全室、温泉を利用した内風呂が楽しめる。臨川閣、青嵐荘の浴槽は高野槙を使用。露天風呂付き客室もある。

▽水明館は岐阜県下呂市幸田1268。☎0576（25）2800。http://www.suimeikan.co.jp/

地消地産にこだわった料理

能舞台「石橋の間」で開催された七夕茶会

富山県・宇奈月温泉

延楽

こだわりの料理に自信

富山県宇奈月温泉の延楽（濱田政利社長）は、旅館料理の枠を超えたこだわりの味を追求している。生地港から毎朝仕入れる魚介、地元の米や野菜を使い、受け継がれてきた伝統の調理技術で宿泊客をうならせている。

料理・食事

料理のコースは、海、山の幸を特注の器で堪能できる「匠の膳」をはじめ、季節感あふれる逸品が並ぶ「雅の膳」「黒部旬彩膳」「黒部せせらぎ膳」などを用意している。

秋、冬はベニズワイガニ、ホンズワイガニが膳を彩る。旬の魚もそれぞれにうまい。白身魚の刺身には伝統的な調味料「煎り酒」をつけだれに。この煎り酒が評判で、瓶詰めにした商品が館内で販売されている。米は地元の契約農家からコシヒカリを仕入れている。

上質な料理を楽しむとともに、黒部渓谷を望む露天風呂に浸かれば至福のひと時が過ごせる。

▽延楽は富山県黒部市宇奈月温泉347の1。☎0765（62）1211。http://www.enraku.com/

味にも器にもこだわった「匠の膳」

石川県・和倉温泉

加賀屋

空間を分け、部屋食を強化

石川県・和倉温泉の加賀屋（小田與之彦社長）は明治39年創業。屋号には創業者の小田與吉郎氏が加賀・津幡の出身であることと、天下に響く雄藩加賀百万石のように、大きく飛躍したいとの願いを込めている。

加賀屋のおもてなしの心は、「いつもお客さまの満足を第一に考え、働いた」という先代女将の小田孝さん（故人）の精神から生まれた。小さな気配り、心配りを基本にした客室係のサービス。今はどこでも見られる習慣、女将たちによるあいさつまわりは、ここ加賀屋で始まったと言われる。「小田孝はお客さまには『できません』とは言わないように」と、一人一人のお客さまと真剣勝負をするつもりで、サービスにあたった」（同館）。

接客・サービス

その心は今も受け継がれ、おもてなしを高めるための新たな取り組みの追求にも余念がない。

4月には加賀屋の四つの棟のうち、「雪月花」に特選階（15～17階）を改装オープン。部屋食のサービスにこだわり、窓際にダイニングルームを設置し食事スペースを分離させたのがこの部屋の特徴だ。純和風の空間にマッチする輪島塗のダイニングテーブルで、地元食材や郷土料理をゆっくりと堪能できる。

全室にツインベッドを置き、寝具には自然な寝返りで熟睡をサポートする高反発マットレスパッドを採用。フェイシャルマスクやボディミルクなどをそろえ、アメニティも充実している。

加賀屋の館内には輪島塗や九谷焼、加賀友禅など地元・石川の伝統工芸品が溶け込んでいる。湯番頭の案内で、それらの造作を巡る「館内は美術館ツアー」が宿泊客に好評だ。

料金は無料。開催は毎日の午後4時からと午後5時からで、案内時間は約45分。展示品は写真撮影が可能なので、加賀屋宿泊の記念に残せる。

▽加賀屋は石川県七尾市和倉町ヨ部80番地。☎0767（62）1111。http://www.kagaya.co.jp/

能登�chi亭の加賀友禅の吹き抜け「四季の花」

雪月花の特選階客室、左奥がダイニングルーム